開館35周年記念企画展　「金子兜太展　しかし日暮れを急がない」

会期　令和６年９月１４日（土）～１１月２４日（日）

座談会　兜太作品の原点を語る

－第一句集『少年』・第二句集『金子兜太集』を中心に－

令和6年10月26日（土）　13:30～15:00



高野ムツオ（俳人・「小熊座」主宰）

金子兜太の「海程」所属を経て佐藤鬼房に師事、2002 年、鬼房の逝去ののち俳誌「小熊座」を継承。2020 年より日本現代詩歌文学館館長、2024 年より現代俳句協会会長を務める。句集に『陽炎の家』、『鳥柱』（第 44 回現代俳句協会賞）、『萬の翅』（第 65 回読売文学賞、第 6 回小野市詩歌文学賞、第 48 回蛇笏賞）、『片翅』、『あの時　俳句が生まれる瞬間』などがある。



高山れおな（俳人・「豈（あに）」「翻車魚（まんぼう）」同人）

20 歳の頃より俳句を作り始め、1993 年同人誌「豈」に 20 号より参加。2008 年より 2 年間、中村安伸とともにブログ「俳句空間－豈 weekly」を運営。2010 年~12 年朝日新聞俳句時評を担当。2018 年 7 月 8 日付紙面より金子兜太の後任として朝日俳壇選者に就任。句集に『ウルトラ』、『荒東雑詩』（第 11 回加美俳句大賞）、『俳諧曾我』、『冬の旅、夏の夢』。評論・鑑賞に『切字と切れ』、『尾崎紅葉の百句』。



佐藤文香（俳人・「翻車魚（まんぼう）」「鏡」同人）

中学 1 年生のとき句作開始。第 2 回芝不器男俳句新人賞にて対馬康子奨励賞受賞（2006 年）。池田澄子に師事。句集に『海藻標本』（第 10 回宗左近俳句大賞）、『君に目があり見開かれ』、『菊は雪』、『こゑは消えるのに』。編著に『天の川銀河発電所 Born after 1968 現代俳句ガイドブック』ほか。2024 年、詩集『渡す手』で第 29 回中原中也賞を受賞。

山梨県立文学館　講堂　定員 300 名　入場無料

電話または文学館ホームページ「イベント」欄の申込みフォームよりお申し込みください。

〒400-0065 山梨県甲府市貢川一丁目 5-35　℡055-235-8080